

氏 名（本籍）	楠 見 由里子（茨 城 県）		
学 位 の 種 類	博 士（ヒューマン・ケア科学）		
学 位 記 番 号	博 甲 第 5502 号		
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科		
学 位 論 文 題 目	冷え症とリプロダクティブ・ヘルスとの関連に関する研究		
主 査	筑波大学准教授	医学博士	柳 久 子
副 査	筑波大学教授	博士（医学）	江 守 陽 子
副 査	筑波大学講師	博士（保健学）	柏 木 聖 代
副 査	筑波大学准教授	博士（医学）	濱 田 洋 実

論 文 の 内 容 の 要 旨

（目的）

冷え症を主観的および客観的に評価し、リプロダクティブ・ヘルスとの関連を検討する。

（対象と方法）

冷え症尺度の作成、及び信頼性・妥当性の検討を、成熟期女性 513 名を対象に行い、それをふまえて、健康成熟期女性 45 名を対象として冷え症尺度と客観的指標としての末梢血流量との関係を検討した。さらに、妊婦 125 名を対象として、冷え症とリプロダクティブ・ヘルスとの関連を検討した。

（結果）

冷え症の自覚的尺度を測定する主観的指標として、冷え症尺度の信頼性・妥当性がおおむね支持された。しかし冷え症尺度得点と、末梢血流量との相関は認められなかった。冷え症の主観的および客観的指標と、一部の分娩経過、月経随伴症状と関連が認められた。

（考察）

冷え性とリプロダクティブ・ヘルスとはある程度関連していると思われた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

冷え症を主観的側面と、客観的側面から検討し、分娩経過等、リプロダクティブ・ヘルスとの関連にまで踏み込んだ意欲的な論文である。健康女性だけでなく、妊婦の計測をおこなうなど、貴重なデータを取得しており、評価できる。また、筆頭著者として冷え症尺度に関する論文を執筆しており、博士（ヒューマン・ケア科学）取得の要件を満たしている。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。